

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第 11 番 ト短調 BWV782

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第 11 番 g moll BWV 782 楽譜 . . .	4
2. 主題と対主題と装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「インヴェンション」第 11 番 g moll BWV 782 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「インヴェンション」第 11 番 g moll BWV 782 第 II 展開部の楽曲分析と演奏法について	11
5. 楽譜に 3～5 のアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	15

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いでおります。

この度、全 15 曲の PDF 書籍、それから You tube 講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近はコンクール課題において、小学 5, 6 年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019 年 3 月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (*Johann Sebastian Bach* 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける 17 世紀初頭から 18 世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカッラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から 300 年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたるチェンバロ (独: *Cembalo*, 伊: *clavicembalo*) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード (*harpsichord*)、フランス語ではクラヴサン (*clavecin*) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (*polyphony*) といいます。ポリフォニー (*polyphony*) の対義語としては、ホモフォニー (英語: *homophony*、独語もしくは仏語: *Homophonie*) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています 15 調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ホ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と 嬰へ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 11

Johann Sebastian Bach
BWV 782

The musical score for Invention No. 11, BWV 782, by Johann Sebastian Bach, is presented in five systems. Each system consists of a treble staff and a bass staff. The key signature is G minor (three flats) and the time signature is 3/4. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, accidentals, and fingerings. Fingerings are indicated by numbers 1-5 above or below notes. Ornaments are marked with a 'w' symbol. Trills are marked with 'tr'. The score is written in a standard musical notation style with a treble and bass clef for each system.

2. 主題と対主題と装飾記号の演奏について

第 11 番は、第 9 番同様に主題と常に対主題が進行し、2つの主題が織り成し構成されています。

主題と対主題です。

主題

対主題

半音階的な対主題が特徴です。

装飾記号に関しましては、原本にはかなり多くの装飾記号が記されていますが、第二原稿ではただ 1カ所の装飾（17小節上声第3拍 Es の ♪）しか記されていません。ですので、17小節以外の装飾を付けずに演奏しても良いようです。

2小節下声、8小節上声、9小節上声の ♪ は、原本では、♪ となっていますが、♪ 表記しています版が多いようです。2小節下声は、 と演奏して下さい。同様の ♪ は、同様に演奏して下さい。

装飾ではありませんが、5小節上声を  としています版もあります。原本では、D - C となっています。

10小節上声は、 と演奏して下さい。原本で

は、 となっています。原本の装飾記号に沿って演奏する

場合は、 と演奏して下さい。